

はんだ山の風



いちようらいふく 一陽来復

窮地に立つということは、身をもって知る
尊いチャンスであり、得難い体得の機会でもある。
そう考えれば、苦しい中にも勇気が出る、元気が出る。
思い直した心の中に新しい知恵が湧いて出る。
そして、禍を転じて福となす、つまり一陽来復。
暗雲に一筋の日が差し込んで、再び春を迎える
力強い再出発への道が開けてくる。

今、与えられた環境で、このような力強い想いと
「困っても『困らない』」心意気で
この苦境を乗り切っていきましょう！ 病院長 松山 幸弘

Contents

P.2	就任のご挨拶	病院長	松山 幸弘
P.3	副病院長就任のご挨拶	副病院長(渉外・広報担当)	眼科 堀田 喜裕
P.4		副病院長(教育・研修担当)	放射線腫瘍学講座 中村 和正
P.5		副病院長(リスクマネジメント担当)	外科学第二講座(消化器・血管外科学分野) 竹内 裕也
P.6	「胃の手術を受けた方のためのなんでも相談会」を開催しました	周術期等生活機能支援学講座 特任助教	本家 淳子
P.8	うつ病の認知行動療法専門外来について	精神神経医学講座	亀野 陽亮
P.10	お知らせ		
P.10	交通のご案内		



発行 / 浜松医科大学医学部附属病院広報推進委員会
〒431-3192 浜松市東区半田山1丁目20番1号
TEL.053(435)2111(代表) FAX.053(435)2153(医事課)
Hpアドレス / <https://www.hama-med.ac.jp/>

過去の▶
はんだ山の風は
こちらから



就任のご挨拶

『抱負』

令和2年4月から浜松医科大学医学部附属病院長を拝命しました。病院長就任にあたりご挨拶申し上げます。本年からの病院運営方針と病院長としての心づもりを述べたいと思います。

私は整形外科教授併任で病院長職を担うこととなりますので、副病院長の強力な協力のもとに指揮をとっていく必要があります。そこで副病院長には、4名の教授と看護部長を含めた5名にご就任いただきました。広報・渉外担当に堀田教授、運営・管理担当に三宅教授、教育・研修担当に中村教授、リスクマネジメント担当に竹内教授です。この4名の教授に患者サービス担当の佐々木看護部長を加えた5人の副病院長の協力のもと、これから2年間病院運営に取り組んで参ります。それぞれの執行部員が、それぞれのタスクを極めて、そしてお互いに共有してゆくことで一体化し強い推進力が生まれると考えております。

浜松医科大学医学部附属病院の果たすべき役割には、①医療提供機能の充実（診療）、②人材の育成（教育）、③高度医療・次世代医療の開発（研究）が挙げられます。これら3つの活動目標の達成は、ひとつの要件が決定すると思います。それは活動に関わる「人」が一番大切である、人がいなければ達成できないという事実です。

戦国武将である武田信玄は「ひとは石垣、ひとは城」と言いました。ご存じのように信玄は強固な城を持たず、遊撃する軍団を率いて戦国で勝ち抜きました。人と人の結びつきはどんな城より、石垣よりも優るといふ事例です。立派な建物、最新の設備

病院長 松山 幸弘



によって病院が良くなる訳ではありません。その病院を構成する「人」が良くなるのです。

人材育成と言っても画一的な育成は望ましくないと考えています。人には様々な考えと生活があります。組織の一部になるのではなく、一人ひとりがその持てる力を出して組織を支えることを期待します。一枚として同一なものはないジグソーパズルのような、個性を発揮しながら全体として一枚の絵になる組織を私は創りたいと思っています。

『変化を恐れず新しい潮流を』

今後も患者さんや地域の期待に応えるためには、変化を恐れず、新しい潮流を自分たちで創造することが必要です。この地域では本院への信頼は厚く、ブランド力があると感じている方もいらっしゃるでしょう。しかし、ブランドは守りに入れば、すぐに陳腐化してしまいます。変わるリスクより変わらないリスクの方が大きいと肝に銘じ、職員には常に先陣を切って変わり続ける力を備えてほしいと願っています。患者さんにも医療者にも、「いつ来ても最新」と感じていただける病院になることこそ、私が期待する浜松医科大学医学部附属病院の未来像です。

本院も情熱的で、常に感謝の気持ちを持ち、そしてチャレンジ精神旺盛なチームワークを目指したいと思います。質の高さに裏打ちされた最新の医療を患者さんに提供するために、精一杯努力いたしますので、ご理解とご支援を宜しく願います。

副病院長(渉外・広報担当)

眼科 堀田 喜裕



2020年4月1日付けで、副院長(渉外・広報担当)を拝命しました眼科の堀田喜裕と申します。2008年から2年間で、副院長(リスクマネジメント担当)を務めましたので、副院長は二度目となります。

私はちょうど20年前の2000年に浜松医科大学に赴任しました。この20年間に大学及び附属病院は大きく変化しました。大学は法人化し、光先端医学教育研究センター(設置当初は光量子医学研究センター)をはじめとして、探索的臨床研究施設、子どものこころの発達研究センターなど、大学と地域の特性を生かした研究センターが次々に設置され、大学の研究力を高めています。医学部附属病院の新病棟が完成し(2009年)、外来棟も改修されました(2013年)。ここ5年間では変革がさらに加速し、基礎臨床研究棟の大規模な改修、医工連携拠点棟の新設、産学官との緊密な連携、国際化の推進等、教育研究施設の新設・改組・統合と相まって、より機能的かつ充実しつつあります。医学部附属病院の診療実績は、医療安全がさらに強化された上で大きく伸びました。手術件数の増加、平均在院日数の短縮をはじめとして、診療内容も充実しています。歴代の学長、病院長のリーダーシップのもと、職員のためまぬ努力の成果と考えます。2021年には医療機能強化棟が竣工する予定です。特定機能病院に求められる、さらに高度な救急医療を担うことのできる病院が期待されます。

めまぐるしく変化していく社会情勢のなか、多くの医学部附属病院が厳しい運営を余儀なくされている現状がありますが、本院がその中でも順調なのは、皆が一丸となって努力していることでは

ないかと考えます。浜松医科大学に長くお世話になりましたので、感謝の心を胸に深く銘じて、拝命した職責を果たしたいと考えております。

新設の「渉外・広報」担当の副院長ということで、これまで三宅秀明副院長が担当されていた浜松医療センターとの連携をさらに深めていくように指示を受けています。渉外は、外部と連絡・交渉する仕事で、広報はもちろん適切な情報発信をする仕事です。ともに浜松医科大学附属病院の評価につながる大事な仕事と考えます。松山幸弘病院長の強いリーダーシップのもと、医学部附属病院がさらに発展するようにサポートできたらと気持ちを新たにしています。医学部附属病院を支えていただきたい次世代の職員を応援し、上手につないでいきたいので、引き続きご指導、ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



写真は例年五月の連休に行われる浜松まつりのメインイベント、凧揚げ合戦(2012年)。今年はCOVID-19のために、中止になってしまいましたが、来年にはまた見る事ができるでしょう。

副院長(教育・研修担当) 放射線腫瘍学講座 中村 和正



令和2年4月より、副院長（教育・研修担当）、卒後教育センター長を拝命することとなりました中村です。浜松医科大学に赴任して約5年が経過し、なんとか静岡県状況について理解できるようになってきたところで、このような大役を仰せつかり、不安もありますが、精一杯がんばりたいと思います。

卒後教育センターは、平成16年度から施行された新臨床研修制度に対応して本院に設置された組織で、医師及び歯科医師の初期研修に関わる業務と専門研修に関わる業務を行っています。前センター長の須田隆文先生、各診療科の先生方、センターのスタッフの皆様のご努力下、初期研修を経て浜松医科大学の医局に入局する医師数は年々増加しています。その傾向を維持し、より多くの研修医の方々に浜松医科大学の研修プログラムを選択してもらえるように、尽力してまいりたいと思います。2021年初めには新しい研修医宿舎が完成する予定ですので、浜松医科大学の研修プログラムに参加を希望する研修医も増えるのではないかと密かに期待しているところです。

医師の専門研修に関しては、いささかの混乱はありましたが、現在、基本領域との連動研修を行い得るサブスペシャリティ領域についての議論も進み、少しずつですが、進展しています。現時点では放射線科領域の専門研修プログラム以外についてはあまり詳しくはないのですが、皆様いろいろなご教授いただいて、充実した専門医研修ができるようにサポートできたらと考えております。

浜松医科大学は、静岡県の地域医療を担う総合診療専門医（家庭医）を育成するための中核的な機関でもあり、地域で活躍する総合診療専門医の育成を通して、静岡県内の地域医療の充実に貢献することは、大学の大きな使命のひとつです。浜松医科大学には、プライマリ・ケアを担当する総合診療医の養成と地域への定着を促進することを目的として、総合診療教育研究センターが設置されています。私の専門の放射線腫瘍学は、かなり広い疾患を扱うのですが、残念ながら放射線治療そのものはかなり特殊な分野で、プライマリ・ケアとは少々離れてはおります。しかし、この領域は大変重要と考えており、静岡県の地域医療をさらに充実させるために、多くの先生方にご協力をいただければ幸いです。

また、浜松医科大学医学部附属病院はがん診療連携拠点病院であり、がん診療に関わる人材育成、地域全体のがん医療のさらなるレベル向上のための教育的な活動も行っていかなければなりません。院内でのキャンサーボードの充実も必要であり、教育・研修担当の副院長として、また、放射線腫瘍医として、この領域に関してもなんとかお役に立つことができれば、と考えております。

まだまだ知らないことも多く、いろいろとお力添えいただくことも多いとは思いますが、なにとぞよろしくご協力申し上げます。

副院長(リスクマネジメント担当) 外科学第二講座(消化器・血管外科学分野) 竹内 裕也



このたび2020年4月1日付をもちまして、副院長(リスクマネジメント担当)を拝命いたしました外科学第二講座の竹内裕也(たけうちひろや)と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

私は神奈川県出身の52歳、慶應義塾大学医学部を卒業後に大学病院や関連施設を経て、2017年に初めて浜松医科大学の一員となりました。最初は慣れない単身赴任に加えて新しい職場環境になじめるか不安でいっぱいでしたが、まじめで優しい教室員や職員の方々に助けていただきこれまで大過なく3年間過ごすことができました。

外科学第二講座(第二外科)は上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科、血管外科の4つの部門からなり、それぞれが密に連携しながら専門とする疾患の診療にあたっています。多くの方々に支えられて着任以来、手術件数は当科全体で2割ほど増加し(昨年は約1000件)、低侵襲手術(腹腔鏡や胸腔鏡、医療用ロボットを使った傷の小さな手術)と進行がんに対する抗がん剤治療や放射線治療、免疫療法を組み合わせた集学的治療、末梢血管疾患やリンパ浮腫に対する新しい低侵襲治療を積極的に進めることができました。同時にこの3年の間に静岡県唯一の医学部附属病院としての使命と様々な課題も理解できるようになりました。

今回、私が副院長として担当させていただくリスクマネジメント(医療安全)は、患者さんが安心・安全で信頼できる医療を受けていただくために大変重要な部門です。すべての診療行為はど

れだけ注意を払っても患者さんにとって100%安全とは言い切れないのが現

状ですが、医療者がそのリスクをできるだけ下げよう努力するだけでなく、患者さんやご家族との信頼関係をしっかりと築くことが大切です。とくに今年は新型コロナウイルス感染の拡大が大きな健康不安、社会不安となっております。患者さんの命を守ること、安全を守ること、そして医療者の安全を守るとはすべてにおいて優先されるべきことですので、前例にとらわれない様々な対策を考えてまいります。

病院とはいえ職員は明るく元気でなければ、患者さんを笑顔にすることはできません。ウイルスという見えない敵を相手にして大変な状況がしばらく続きますが、松山幸弘病院長のもとすべての職員が今まで以上に協力し、ワンチームになればどんな状況になっても決して乗り越えられないことはないと思います。私も微力ではありますが、「地域と世界に貢献する浜松医科大学」「病気を治すだけでなく患者さんの心に寄り添う医療」を目指して精進してまいりますので何卒よろしくご指導の程お願ひ申し上げます。

「胃の手術を受けた方のためのなんでも相談会」を開催しました

周術期等生活機能支援学講座 特任助教 本家 淳子

開催の経緯

2018年、浜松医科大学に周術期等生活機能支援学講座が開講しました。本講座は、平松良浩特任准教授（外科医）、渡邊浩司特任助教（リハビリテーション科医）、私（看護師）の3名で構成され、手術をはじめとした入院する方の生活機能の維持に着目した医療やケアにかかわる研究、医療者の人材育成を通じて、入院をきっかけとした身体機能や認知機能の低下を防ぎ、「その人らしい生活」を維持したまま地域での生活に復帰できる医療の実現をめざすことを目的としています。また、浜松医科大学周術期管理チーム(HOPE; Hamamatsu perioperative care team)とも連携を図り、主に食道がんの手術を受ける方を対象とした周術期管理の円滑なチーム医療の推進をめざしています。HOPEは、外科学第二講座竹内裕也教授が発起人となり2017年から活動を開始し、術後肺炎発症の低減や術後体重減少の抑制、術後早期離床などの成果を得ています。最近では、高齢の患者さんや基礎疾患をお持ちの患者さん、大侵襲手術の患者さんなど、食道がん以外の疾患にも対象を広げつつありますが、一般的な消化器がんの患者さんへの支援は十分とは言えないのが現状です。食道がんと同様に胃がんでも手術や化学療法などの影響で体重減少や体力低下をきたし、不安を抱えたまま生活していらっしゃる方がいるのではないかと推察され、そういった方々に対し食事に関することや、体力低下の予防に関する支援を行う場として、相談会を開催することにしました。



次回もお待ちしております!

目的と名称

相談会を開催するにあたり、①胃がんの手術を受けた方とその家族に対して、必要に応じた食事・運動療法の支援を行う機会とすること、②参加者が自由に話せる場とし、お互いの経験を共有する場、医療者や参加者の情報から日常生活のヒントを得る場とすること、の2つの目的を立てました。①の食事・運動療法の支援について、様々な専門職からの情報提供ができるようHOPEメンバーの協力を得ることにしました。②については、平日お仕事をされている方や当院に受診していない方も参加しやすいよう、土曜日に開催することにしました。相談会の開催頻度は年2回程度を予定しています。相談会は食事に関することや、体力低下の予防に関する支援を行うことを目的としていますが、それだけにとどまらず、参加者がどんなことでも相談できるように「なんでも相談会」と名付けることにしました。

「第1回 胃の手術を受けた方のためのなんでも相談会」

第1回の相談会を2019年12月に開催しました。

胃の手術後 食べ方のポイント

- ポイント1 よく噛んで食べる
- ポイント2 少しずつゆっくり食べる
- ポイント3 1回の食事量を少なく、間食を活用する
- ポイント4 食後30分は座って休憩する

胃の手術後 症状別対応策

ダンピング症候群

消化の良いタンパク質と脂質がオススメ

- おすすめ食材
- ☆茶碗蒸し
 - ☆温泉卵
 - ☆チーズ
 - ☆豆腐
 - ☆はんぺん



食べる量に注意しましょう
アイスクリーム
炭酸ジュース
コーヒー
ケーキなど

▶▶▶
オリーブオイル+塩



参加者アンケートより

Q. 相談会に参加した感想

- 手術直後を振り返ることができ、食べるのが早くなっているかもと反省できた
- また相談会あったら参加します。とっても勉強になりました
- 大変参考になりました。試食品もいただきありがとうございます
- 胃癌患者同士で話ができるところがなかったので、このような機会はとても貴重です
- 色々お話し聞けて、試食できて、お話もできてとても良かったです
- また参加したいと思います

Q. 今後、相談会で取り上げて欲しいこと

- 体力と筋力がないので、簡単にできるリハビリ体操など
- 日頃の運動について
- 参加者が個々に困っていることについての具体的な対策についての話があると良いと思います。



管理栄養士による講義の様子

『栄養』をテーマとし、管理栄養士によるミニレクチャー・医療者への相談・栄養補助食品の試食などを行いました。ミニレクチャーでは「おいしい楽しい食事の工夫」について講義があり、バランスの良い食事、胃の手術後の食べ方のポイント、症状に応じたレシピなどが紹介されました。栄養補助食品の試食は、普段あまり食べ比べることがないだろうと考え、様々なメーカーの栄養補助食品を用意しました。医療者だけでなく、参加者同士でも会話をしながら楽しく試食をすることができ、参加者アンケートからも満足度が高かったようです。

今後の予定

胃の手術を受けた方が元気にその人らしく生活できるきっかけ作りができるよう、「なんでも相談会」は内容を検討しながら開催していきたいと考えています。第2回は2020年6月6日（土）を予定しており、テーマは、第1回のアンケートで要望があった『体力・筋力アップ』、『運動』に関する内容を予定しています。普段の生活の中でどのように体力・筋力アップをめざしていくか、どんな運動がいいのか、参加者と一緒に考える機会にしたいと思いますので、ご興味のある方はお気軽にご参加ください。

胃の手術を受けた方のための なんでも相談会

「体力や筋力をつけたいけどどうしたらいいの？」
「どんな運動がいいの？」
など、胃の手術を受けた方の不安や疑問を
一緒に考える相談会を開催します。

日時 2020年6月6日（土）
10:00 ~ 11:30（受付 9:30 ~）

場所 浜松医科大学附属病院1階 リハビリテーション科

対象 胃の手術を受けた方
（食道の手術を受けた方も参加可能です）

内容

- 運動療法について
- 実際に運動してみよう！
- 理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士への相談コーナー
- 筋力アップにつながる食品の紹介
（試飲も用意しています）

ぜひ、ご参加ください

お問い合わせ先 浜松医科大学 周術期等生活機能支援学講座
TEL 053-435-2427

**参加無料
予約不要**

※ 新型コロナウイルス感染症の状況により、延期または中止する可能性があります

うつ病の認知行動療法専門外来について

精神神経医学講座 亀野 陽亮

現在わが国のうつ病患者数は100万人を超えるとも言われ、社会問題となっています。その背景として様々な理由が考えられますが、平成27年12月に労働安全衛生法が改正され、職場のストレスチェックが義務化されたことなども影響しているとされています。また、うつ病の社会的認知が進んだことで最近10年の患者の受診率は精神科で約16%、身体科で9%増加しています。さらに、本邦でのうつ病から生じる社会的損失は約2兆円と推定されており、その対策は喫緊の課題となっています。

認知行動療法とは

認知行動療法は1960年代にA.ベックによって開発された精神療法で、軽症のうつ病では薬物療法と同等の効果があるとされています。また副作用もなく安全に実施できる精神療法です。さらに、中等症以上のうつ病でも薬物療法と併用することで再発予防効果も示されています。

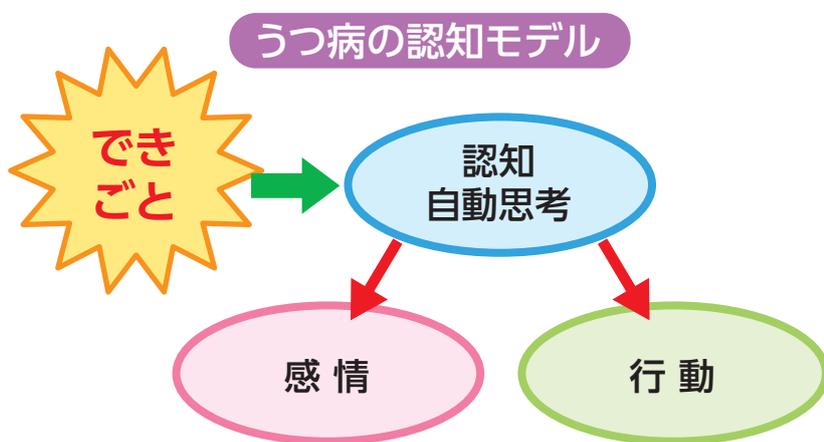
認知行動療法は、うつ病に特徴的な悪循環を認

知、感情、行動に分け、認知の歪みを修正することで悪循環から脱するという精神療法です。

認知行動療法専門外来について

認知行動療法は2010年に保険適応となり、うつ病治療の選択肢の一つとなりました。しかし、実施には30分から60分と時間が掛かること、治療者の訓練も困難であるといった理由から、実施できるクリニックや病院が限られています。そのため、多くのうつ病の患者さんが認知行動療法を受けたくても受けられないという現状があります。

浜松医大精神科では、これまでも臨床心理士・公認心理師の研修機関として、県下の関連病院やクリニックなどに多くの人材を輩出してきました。そして、うつ病に限らず、不安障害、強迫性障害、摂食障害など多くの疾患を対象に精神療法を提供しています。さらに、上記のような社会的ニーズに応じていくために、専属の医師と公認心理師を選定し、2019年度にうつ病の認知行動療法に特化した専門外来を開設しました。



対象となる方

本専門外来では20～50歳の軽症うつ病の方を対象に治療を行なっています。

中等症以上の方の認知行動療法は、適否を考慮した上で薬物療法と併用して従来通り精神科一般外来で行っています。またうつ病以外の方の認知行動療法も従来通り精神科一般外来で行っています。なお、認知行動療法が終了した後は一般のクリニックや病院に逆紹介させて頂くことがあります。



治療の流れ

本専門外来で行なっている認知行動療法は厚生労働省の認知行動療法マニュアルに準拠し、基本的に1回あたり30-60分、1-2週間に1回、計16回の治療を行っています。

セッション	テーマ
1-2	これまでの経過、状態を振り返るうつ病と認知行動療法を知る
3-4	現在の問題点を見つけ、治療目標を決める。日々の行動パターンを見直してみる
5-6	コラム表を用いて嫌な気分・自動思考の悪循環を見つける
7-12	自動思考を見直し、バランス思考を深める
13-14	スキーマ(心の法則)を見つける
15-16	まとめと再発予防

受診の流れ

認知行動療法専門外来の初診予約は月曜日（午前）、火曜日（午後）となります。
まずは浜松医科大学精神科外来（053-435-2635）にお電話下さい。



(注：本院は完全紹介予約制のため、初めて受診される場合は、かかりつけ医からの紹介状がない方の受診はできません。)

お知らせ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と患者さんへの感染予防のため、現在下記の対応をしておりますのでご協力くださいますようお願いいたします。



1.来院される方へのお願い

来院される方は、可能な限りマスクの着用と、来院前に体温を測ってご自身の体調の確認をお願いします。発熱症状や風邪の症状がある場合や体調に不安がある場合は、ご来院をお控えいただくか、かかりつけの診療科へお電話等でご相談ください。また、付き添いは原則1名とさせていただきます。やむを得ず複数名になる場合は総合受付にご相談ください。

2.入院患者さんの外出及び外泊の禁止

当院に入院されている患者さんの外出及び外泊を原則禁止とさせていただきます。どうしてもやむを得ない事情により外出及び外泊を希望される場合は主治医とご相談ください。

3.面会の禁止

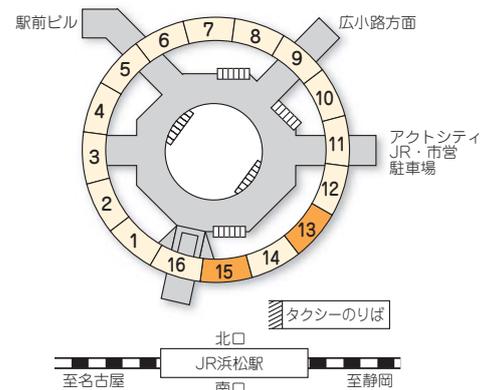
入院患者さんへの面会を原則禁止します。ただし、病状説明や手術当日、病院からの呼び出しを受けた時、入院生活に必要な物品を届ける時、その他どうしても付き添いが必要と判断される場合などは、必要最低限人数かつ面会者の体調確認の上、面会を許可します。

なにとぞご理解・ご協力のほどよろしく申し上げます。

交通のご案内



浜松駅北口バスターミナル図



	バスのりば	路線名称等	時間
遠鉄バス	13番ポール 路線番号50	山の手医大線 医大行き	約35分
	15番ポール 路線番号47	医大じゅんかん (葵町まわり)	約40分

※各路線とも医科大学下車



- ご来院の際は上記駐車場をご利用ください。
- 入院患者さんの自家用車で来院はご遠慮ください。
- 入院患者さんでやむを得ず自家用車で来院し入院された方は、一般利用の方と同様に駐車料金が必要となりますので、ご了承ください。

外来患者の方 付添いの方	最初の 30分まで 無料	1回/100円 (駐車後24時間)
お見舞いの方 一般利用の方		60分/200円 最大料金 駐車後24時間 600円

※平成30年4月1日(日)よりタイムズ24株式会社
駐車場の管理運営を行っています。

外来診療日一覧

2020.5.1現在

受付時間 午前 8時30分～11時 一般外来・専門外来
午後 0時30分～2時 専門外来

○：午前
◆：予約のみ

休診日 土曜日および日曜日、祝日法による休日、12月29日～翌年1月3日

診療科名	診療日										備考
	初診					再診					
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
内科 受付電話 435-2632											
一般内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
消化器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
腎臓内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：午後のみ
脳神経内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	水曜日：午前のみ
感染症専門外来			◆					◆			午後のみ
肝臓内科	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	
呼吸器内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
禁煙外来	◆					◆					
内分泌・代謝内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
血液内科	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：午前のみ
免疫・リウマチ内科	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
臨床薬理内科	◆			◆	◆	◆			◆	◆	要問い合わせ
循環器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火曜日：午後のみ
ペースメーカー外来											予約のみ 要問い合わせ
ピロリ菌外来	◆										午後のみ
精神科神経科 受付電話 435-2635 ※平成28年5月から、初診完全予約制を実施しています。											
初診・再診		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	
専門外来							◆				
児童思春期外来								◆			
成人発達障害外来			◆						◆		
摂食障害専門外来									◆		
デイケア								◆	◆	◆	※2020.4.28～休診
小児科 受付電話 435-2638											
初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
内分泌・遺伝		◆					◆				
内分泌		◆					◆				
心臓				◆	◆				◆	◆	
血液				※	※				◆	◆	※初診は随時電話で
免疫・アレルギー	◆			◆	◆	◆			◆	◆	
神経	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
腎臓				◆					◆		
新生児フォローアップ						◆	◆			◆	
乳児検診	◆					◆					
CCS外来									◆		第4週のみ
小児外科 受付電話 435-2638											
初診・再診		◆		◆		◆	◆		◆		
外科 受付電話 435-2641・2642											
心臓血管外科	○		○		◆	○		○		◆	
血管外科		◆		◆			◆			◆	木曜日：午前のみ(下肢静脈瘤)
呼吸器外科			◆					◆		◆	
乳腺外科	◆	◆			◆	◆	◆			◆	
上部消化管外科		◆	◆					◆	◆		
下部消化管外科	◆					◆			◆	◆	木曜日：午前のみ
肝・胆・膵外科				◆	◆				◆	◆	
一般外科	○		○		○	○		○		○	
肥満減量外来					◆					◆	
緩和ケア外来		◆			◆		◆			◆	
脳神経外科 受付電話 435-2644											
初診・再診	◆	◆		◆	◆		◆		◆	◆	
整形外科 受付電話 435-2647											
初診・再診	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
教授外来(脊椎)	◆			◆		◆			◆		
骨粗鬆症				◆					◆		
リウマチ			◆	◆					◆	◆	
手・末梢神経			◆						◆		
脊椎	◆					◆					
腫瘍			◆						◆		
股関節					◆					◆	
肩関節					◆					◆	
膝関節・スポーツ					◆					◆	
小児整形	◆					◆					
ヘルニア							◆				

診 療 科 名	診 療 日										備 考
	初					再					
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
皮膚科 受付電話 435-2650											
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	アトピー外来			◆				◆			
	脱毛症外来	◆		◆				◆			
	乾癬外来		◆					◆			
	皮膚リンフォーマ外来				◆					◆	
泌尿器科 受付電話 435-2653											
	初診・再診	◆	◆	◆	◆			◆	◆	◆	
専門外来	腎移植外来				◆					◆	医師交代制
	排尿障害外来		◆					◆			
	不妊症外来		◆					◆		◆	第1、3、4、5週のみ
	腫瘍外来		◆	◆	◆			◆	◆	◆	
眼科 受付電話 435-2656											
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火・金曜日：午前のみ
専門外来	網膜変性外来		◆					◆			
	斜視・弱視外来							◆			
	ロービジョン									◆	
	角膜外来									◆	第2週のみ（月により変更あり）
耳鼻咽喉科 受付電話 435-2659											
	初診・再診	◆	◆		◆	◆	◆		◆	◆	
専門外来	腫瘍外来	◆					◆				
	耳外来				◆					◆	
	めまい外来			◆							
	耳鳴外来		◆					◆			
	難聴外来・人工内耳外来		◆					◆			
	睡眠時無呼吸・いびき外来					◆				◆	
	顔面神経外来		◆		◆			◆		◆	
	鼻副鼻腔・アレルギー外来				◆					◆	
産科婦人科 受付電話 435-2662 ※女性医師ご希望の方はお申し出ください。											
	産科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	婦人科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	婦人科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	産科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	腹腔鏡外来				◆					◆	
	母親学級							◆			
	漢方外来				◆					◆	第1、2、4週のみ
A R T 室 受付電話 435-2664											
	不妊外来						◆	◆		◆	
放射線科 受付電話 435-2665											
	放射線治療科 放射線治療外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	放射線診断科 IVR外来		◆					◆			
麻酔科蘇生科 受付電話 435-2668											
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
リハビリテーション科 受付電話 435-2747											
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	要問い合わせ 午前のみ
専門外来	義肢・装具外来			◆				◆			午後のみ
	嚥下外来	◆		◆				◆			
	痙縮外来		◆		◆			◆		◆	
	高次脳外来	◆			◆			◆		◆	
形成外科 受付電話 435-2496											
	初診・再診	○	○	○	○		○	○	○	○	
歯科口腔外科 受付電話 435-2673											
	初診・再診	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	唇 顎口蓋裂外来			◆				◆			専門外来の診察日は不定期のため、歯科口腔外科外来受付電話にお問い合わせください
	顎補綴			◆				◆			
	矯正歯科					◆				◆	

※市外からお電話の場合は、電話番号の前に市外局番（053）を付けてください。